

2020 年第 1 回 IEEE Japan Council 理事会議事録

日 時：2020 年 4 月 8 日(水) 14:00～17:40

場 所：Web 会議

出席者: 尾上 Chair、佐波 Vice Chair、滝嶋 Secretary、羽渕 Treasurer、
大鐘札幌支部 Chair、佐藤仙台支部 Chair、大町仙台支部 Vice Chair、
加藤信越支部 Chair、徳田東京支部 Chair、宇佐見東京支部 Vice Chair、
野田 JC WIE Chair、穂積名古屋支部 Chair、杉江関西支部 Chair、
梅田関西支部 Vice Chair、野口四国支部 Chair、大久保広島支部 Chair、
谷口福岡支部 Chair、福田 COC Chair、梶川 SAC Chair、
桑原 AC Chair、山田 IPC Chair、津田 Past Chair、杉江 Past Secretary、
眞田 Past Treasurer、白川 HC Chair、重松 LRSC 委員、栗本 MD Coordinator、
竹村 YP Coordinator、青山 LMAG Coordinator、南 MGA ARC Past Chair、
西原 R10 Director、橋本 R10 Secretary、高村 R10 Treasurer、
矢野 R10 WIE Committee Chair、鈴木 R10 YPC Chair、
小菅 2020 IEEE Technical Activities Vice President、
百武オブザーバ、梶川(明)オブザーバ、事務局 セクレタリアシスタント、書記

議題：

1. 前回理事会議事録の確認（審議）
2. 2020 年 Japan Council 理事会構成（報告）
3. 2019 年決算報告・監査報告
4. 2020 年 活動計画および 2020 年予算（報告）
5. 2020 年中間会計報告
6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 6-1 Chapter Operations Committee
 - 6-2 Student Activities Committee
 - 6-3 Awards Committee
 - 6-4 Industry Promotion Committee
7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 7-1 Long Range Strategy Committee
 - 7-2 History Committee
8. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告
 - 8-1 Women in Engineering
9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告
 - 9-1 MD

9-2 YP

9-3 LMAG

10. 各支部 2020 年活動計画および前回理事会以降の活動報告

10-1 札幌支部

10-2 仙台支部

10-3 信越支部

10-4 東京支部

10-5 名古屋支部

10-6 関西支部

10-7 四国支部

10-8 広島支部

10-9 福岡支部

11. その他

11-1 TENCON2020 について

11-2 R10 Meeting 2020 参加報告

11-3 MGA ARC 関連のトピックス

11-4 Garoon 導入に関するアンケート集計結果

[参考] IEEE Japan Council メール審議記録

[参考] 支部別会員数/支部別Society 会員数の推移

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

議事：

0. Chair ご挨拶

Chair より、開会のご挨拶が述べられた。

Secretary より、緊急非常事態宣言を受け、機械振興会館 JC 事務局は 4 月 7 日より完全テレワークに移行したので、連絡は極力電子メールでお願いしたいと依頼があった。

1. 前回理事会議事録の確認（審議）【審議→承認】

Secretary より、前回理事会(2019 年 12 月)議事録の確認があり、異議なく承認された。

2. 2020 年 Japan Council 理事会構成（報告）

Secretary より、2020 年 Japan Council 理事会構成メンバーの仙台支部 Chair の交替および本部役員のタイトルの変更について報告があった。新任の仙台支部 Chair にご挨拶をいただいた。

3. 2019 年決算報告・監査報告

Treasurerより2019年決算報告および監査報告があった。当初予算では赤字を見込んでいたが、収支は黒字になった。本決算報告については、監査法人より適切と認められた。

4. 2020 年 活動計画および 2020 年予算 (報告)

Secretaryより、理事会開催予定、Section Assessmentの還元やSection支援費の有効利用、WIE活動の支部移行完遂をはじめとする主要議題、支部との連携強化・活動支援、常設委員会の活動、Ad-Hoc委員会の活動継続、Affinity GroupおよびJC Coordinatorの活動、本部、R10との連携強化、国内学会との協力関係の推進、2020 IEEE Region 10 Meeting (Webex開催)をはじめとする会合等について説明があった。Treasurerより、2020 年予算の説明があった。SB支援費が昨年より多いのは旅費規程の改訂によるもので適正額に戻した。予備費が多いが、イベント開催等が新型コロナウイルスの影響を受ける場合には適宜相談して欲しいと依頼があった。

5. 2020 年中間会計報告

Treasurerより、2月末時点での会計報告があった。事務局費以外ほとんど執行していない。Secretaryより、予算執行計画の進捗率について、予算の執行状況を随時見える化し、効果的な執行とするため、各位より寄せられた執行予定を一覧にまとめた。計画変更がある場合には連絡して欲しいと依頼があった。

6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

6-1 Chapter Operations Committee

COC Chairより、2020年会合予定、2019年および2020年Chapter支援費、Award登録、各Chapterのホームページ運用状況、Chapter支援費やAwardをはじめとする重要課題への今後の対応について報告があった。COC運用のSection配下への移行に関するアンケートの回答結果を踏まえ、各ChapterのOfficialsに対する説明を、西と東に分けて実施する計画を立てているが、新型コロナウイルスの影響で実施できていないためweb会議等を検討する。

新型コロナウイルスの影響でイベント開催は難しい面もあるが、集客を伴わずにChapter活動を支援するために、Awardや講演会などの企画を積極的にお願ひする。COC運用のSection配下への移行について、各ChapterやSectionのChairや実務を担当するTreasurerを中心に説明する予定であること、担当が変わっても業務が継承されるようオンライン化を進めてゆくこと、JCとして、小さいChapterの活動をいかに支援するかなど、長期課題としてLRSCで議論したいと補足説明があった。

6-2 Student Activities Committee

SAC Chairより、IEEE Student Branch Leadership Training Workshop (SBLTW)、SB

の新Officerの名簿更新状況ならびにSB会員数状況、SBの継続的活動の支援、R10におけるイベントならびに海外支部とのイベントを通じた学生交流支援、支部SACとの連携強化、予算について報告があった。SBLTWは新型コロナウイルスの影響で延期した。新Officerの連絡がないSBにはJC SACからも督促を行うが、各支部SACからも督促をお願いする。

Probationを含めて活動活性化に向けたPracticeの共有については、直接各SBに、また、各支部のSAC Chairに連絡、サポートをしている。SBLTWのオンライン・ミーティングはできるだけ早く開催する。

6-3 Awards Committee

AC Chairより、2020年の受賞者6名の紹介、2020年までの日本の受賞数、Fellow受賞者数推移の紹介、今後の予定の説明があった。Fellowの受賞者数が2020年は8件と近年減ってきているので、受賞にふさわしい方をプロモーションしていただくようお願いする。Awardについても各支部と情報共有をし、プロモーション活動を行う。

Fellow促進について、各支部のCommitteeの取り組みや課題、意見を集めて共有し、ACで分析することとなった。

6-4 Industry Promotion Committee

IPC Chairより、2020年3月までの活動報告、2020年の年間計画、予算について説明があった。プロモーションのためのTシャツやパンフレットの作成をMDと連携して行っている。Tシャツのデザイン案は出来つつある。パンフレットについては、受け手側の立場に立ち、学生、YP、WIE、企業の方に経験談を語ってもらい、属性別の一枚ものを作ることを検討している。WIE、SAC、YPなどと連携して作成する。

TENCON2020の大阪開催を予定しており、Japan OfficeやMDと協力したIEEE(企業)会員増強施策などに注力している。企業見学会は新型コロナウイルスのため進んでいない。

7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

7-1 Long Range Strategy Committee

Vice Chairより、2020年活動報告と今後の活動予定の説明があった。2020年第1回委員会を2月28日に開催した。COCの課題としてOfficerの交替時に業務が上手く引き継がれないことからTrainingを行う計画を立てる。長期課題として若者を育成するための意義ある活動について議論し、やる気のある若者にJCが資金を支援することを本理事会に提案する予定だったが新型コロナウイルスの影響で計画が立てられないため、今後状況を見て提案する。

参加や旅費支援にとどまらず、日本国内を盛り上げるような若者が育つ企画であれば積極的に支援したいと補足説明があった。

7-2 History Committee

History Committee Chairより、2020年度体制、2020年度HC委員会、Milestoneの状況説明があった。商用DSP μ PD7720の開発・実用化がBOD通過の見込みである。

8. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告

8-1 Women in Engineering

JC WIE Chairより、活動報告があった。2020年の体制について、2019年12月25日を締め切りとして、現会長・三役の続投に関する信任投票を会員に対して実施し、異議なく了承された。1月29日に第1回JC WIE役員会議を開催した。JC WIE支部移行に関する活動として、WIE設立に関する意向調査の結果が示された。また、新型コロナウイルスの影響で、2020年のいくつかの活動は日程再調整中であることが報告された。

支部移行に際しては、JC Coordinatorを設定して全体を見ていくことが必要だと考えている。

9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

9-1 MD

MD Coordinatorより、4月24日開催の第1回MDC会議で各支部MDCとの情報共有を行うこと、Japan Officeや他Committeeとの連携、入会パンフレットの作成検討、2020年予算案の説明があった。R10からあらゆるOUでMD担当者を決定して欲しいと依頼があり、これを受け、JCにおけるYP、SAC、WIEでMD担当者を指名するよう依頼があった。担当者はMDの視点を持って各OUで活動頂ける方が良いため、別途関係者で協議する。

9-2 YP

YP Coordinatorより、3月20日にSapporo YPが発足したことをはじめとする2020年の活動状況、今後の活動予定として、R10のアイデアコンテストIEEE YESIST12 2020の国内選考をオンラインで開催すること、次期YP Coordinator (21-22年度)の募集を行うため希望者を募っていることが前回理事会からの変更点として報告された。2019年活動報告書の説明があった。

YESIST12 2020(タイ)の派遣費用について、IEEE SIGHT費用からの補助が受けられない場合はJCからの支出とすることについて会議の場で諮り、異議なく承認された。

また、JCで費用負担した活動やイベント参加は、参加して得た良い経験を広く知らせるため、レポートを作成してIEEE JC のホームページに掲載するので準備する。

9-3 LMAG

LMAG Coordinatorより、Review of the Life Member Committee (LMC) 2019の要約説明があった。LMAG Coordinatorは、2019 IEEE Life Member Committee委員を2019年末で終了したことが報告された。

Sections Congressについて、新型コロナウイルスの影響ですべての検討を保留している、状況が好転すれば再度案内する、と補足説明があった。

10. 各支部2020年活動計画および前回理事会以降の活動報告

10-1 札幌支部

支部Chairより、Sapporo YPが発足したこと、これを受けてStudent Activityに注力することなど、2020年活動計画の説明があった。

10-2 仙台支部

支部Vice Chairより、2020年事業計画の説明があった。前半に予定されていた講演会は中止となった。特筆すべき活動に、WIEでは、Sendai WIE設立3周年記念イベントや、支部連合大会企画セッション「(仮)女性研究者たちが伝える研究の魅力」が、YPでは、Sendai YP設立キックオフイベント(10月30日予定)がある。新型コロナウイルスの影響を踏まえた講演会の実施形態についてはonline開催の準備を進めている。

10-3 信越支部

支部Chairより、活動状況の報告と活動計画の説明があった。前回理事会以降、Joint Workshop of IEIE JB and IEEE Shin-etsu SSBを開催した。活動計画について、まだ講演会の企画を立てていないため現時点での新型コロナウイルスの影響は無い。予算は昨年並みである。韓国とのイベントについて、今年は予定していない。

10-4 東京支部

支部Vice Chairより、活動計画の説明があった。4月3日に総会と理事会を開催した。講演会・学生支援活動は、新型コロナウイルスの影響で様子を見ながら進める。Milestone認定支援について、遺留指紋自動識別システムはBOD承認済み、商用DSP μ PD7720の開発・実用化と、プッシュプル締結方式を採用したフィジカルコンタクト(PC)接続による光ファイバコネクタはBOD待ちで、今年度中に受賞できるよう支援する。Fellow昇格について、日本からの昇格者が減少している状況を受け、現Fellowの協力を仰ぎながら、積極的に候補者へ個別コンタクトすること、Fellow候補者となるSenior Memberへの昇格も組織的な取り組みを強力に押し進めるよう検討している。

10-5 名古屋支部

支部Chairより、2019年12月以降の活動状況の報告があった。役員会・拡大理事会・総会開催状況、授賞活動、QRコード、およびイバータエアコンの2件のIEEE Milestoneに関して、1月にIEEE 本部に対する申請を完了、12月19日に名古屋WIE設立記念イベントを実施、IEEE MGA Award授与を行った。2019年はIEEE会長講演会があったため支出が増えている。2020年

予算は2019年並みである。

4月4日に開催予定だった国際会議研究発表賞の授賞式は開催せず授与品を郵送した。名古屋WIE設立記念イベントについて、今後移行を予定する支部に助言を頂きたい。

10-6 関西支部

支部Chairより、2019年12月以降の活動報告があった。理事会や総会を開催し、総会ではYoung Professionals賞等を授与、新Senior Member 20名と歴代貢献者に関西支部メダルを授与した。技術講演会2件を実施した。JC Section支援を通じ、IEEEシニアメンバーへの昇格のための勉強会・講演会などを9月に予定している。

10-7 四国支部

支部Chairより、2019年12月以降の活動報告があった。2019年度電気関係学会四国支部連合大会を開催、2020年度も開催を予定する。2月開催予定のサイバーセキュリティシンポジウム道後は、新型コロナウイルスの影響で9月に延期となった。2月までに3件の講演会を開催した。今後の開催については、新型コロナウイルスの影響で計画が止まっている。

10-8 広島支部

支部Chairより、活動計画の説明があった。MAW2020開催が2020年の活動の目玉であり、「Mobileが創り出すIoT・IoTが加速するMobility」（仮）をテーマに調整を行っており、会期は10月16日、Workshopと懇親会を予定、会場はホテル広島ガーデンパレスである。予算は例年分にMAW2020開催分を積み増している。

MAW2020での同時開催イベントの日程は、MAW2020の前日か翌日を予定しており、具体化はこれから検討する。

10-9 福岡支部

支部Chairより、2019年12月以降の活動報告と活動計画の説明があった。2020年第1回理事会を2月1日に開催し、福岡支部学生研究奨励賞と福岡支部発表奨励賞を決定した。2020年は表彰関連の活動を充実させるとともに、SB立ち上げも検討する。第2回JC理事会を7月31日に沖縄那覇市で予定しているが、新型コロナウイルスの影響を見ながら進める。

沖縄Chapterについて、立ち上がったばかりで目立った活動はない、2020年の主催・共催講演会開催は例年通り順調に進むと思っている。

11. その他

11-1 TENCON2020 について

Chairより、会議全体について、各支部から2名のSupporting Committee Memberを選出頂いたこと、MOUの締結が済んだこと、ローカルな実行委員会を開催し、現在は予定通り開催す

る方向で進めていること、新型コロナウイルスの影響で6月1日の論文締め切りを3～4週間延期することをTPC Chairと検討していること、などの説明があった。

支部の方々の今後の対応については、GW明け頃に具体的な依頼をする予定。

TENCON2020 SITについては、TENCON2020と同会場にて本会議会期中の1日あるいは半日の開催を予定している。TENCON2020の参加登録者を対象に、ベンチャーや若い人たちが参加できるようにいくつかテーマを設定する。講師や学生向けにトラベルファンドを検討している。新型コロナウイルスの対応を協議、修正案の提示を今後予定している。

11-2 R10 Meeting 2020 参加報告

Secretaryより、参加報告があった。新型コロナウイルスの影響で3月7日にWEB会議(WebEx)にて開催され、IEEE President等ボードメンバを含め、総勢111名(WebEx上の参加数計測)、日本から20名程が参加した。トピックスとして、グローバル連携、会員拡大の重要性、会費変更の場合のシミュレーションの検討が示されたこと、SectionとSection Chapterとの連携強化が重要な課題でありベストプラクティス提案を募ることなどの説明があった。

11-3 MGA ARC 関連のトピックス

MGA ARC Past Chairより、2019 MGA Individual Awards (選考結果発表)が示された。日本から橋本隆子氏が5つの賞の内の最高位の賞である2019 MGA Larry K. Wilson Transnational Awardを受賞した。3件のCall for Nominationsの周知があり、応募検討の依頼があった。

11-4 Garoon導入に関するアンケート集計結果

Secretaryより、アンケートの結果報告があった。Garoon導入から約6か月が経過したため、利用状況や要望を把握するためにJCおよび東京支部のID保持者を対象にアンケートを行った。理事会出欠確認や理事会資料の提出をGaroonのファイル管理を利用して行うことに積極的なご意見をいただいた。JC関連イベントの情報共有・情報発信のツールとして利用していただくよう、Garoonの利用促進に努める。

[その他]

Secretaryより、2020年第2回理事会は、7月31日沖縄(福岡支部)で開催予定であることが周知された。

以上